

## 編集室

東京五輪・パラリンピック組織委員会会長のポストをめぐり、初代JリーグチェアマンでバスケットボールのBリーグ創設にも尽力した川淵三郎氏の名前が挙がった。ただ、不祥事で退く人が後任者を決めるのは筋が通らないと、川淵氏の会長就任は見送られた。

川淵氏といえば、2020年5月5日配信のヤフーニュースの記事で、興味深い発言を読んだことを思い出した。記事のタイトルは「『途中でこけちゃいました』に救われた—川淵三郎、『グッドルーザー』を語る」。

川淵氏は、記事の中で、スポーツマンにグッドルーザー（誇り高き敗者）たるべき人間性、資質を求め、審判に見えないところでのアンフェアなプレーが“必要悪”のようにまかり通る、サッカーのマリーシア（ずる賢さ）の考え方を嫌っていた。マリーシアという言葉の意味はさまざまなようだが、アンフェアなプレーを好む人はいないだろう。

価値ある勝利とは何か。スポーツに限らないが、やはり、大事なものは「正々堂々」である。

賛否の割れている五輪開催は、感情論に偏らず、科学的知見に立って判断すべきだろう。正々堂々と難題に立ち向かえば、結果がどうであれ、人として、開催国としての誇りはレガシーになり得るのではないか。

昨年、自転車競技のインカレ代替大会を制した卒業生の尾形尚彦選手（文4）を今号で紹介した。2019年の挫折を糧とした尾形選手は「辛くて逃げたくなるときも、自分と真剣に向き合うことができれば、成功へ近づく」と話した。

最終学年は、多くの卒業生にとって、不完全燃焼の一年だったかもしれない。この雌伏の時の経験が、将来に役立つことを願っている。

（編集長 北村 豊）

## STAFF

### ◎取材協力

学事部	国際センター
各学部事務室	入学センター
大学院事務室	キャリアセンター
学生部	学友会
ボランティアセンター	経理研究所
中央図書館	委員会 ほか

### ◎写真提供&協力

「中大スポーツ」新聞部

### ◎学生記者

中里真侑	齋藤優衣	津田翔
平岡亜美	石井伊蒔	森康太郎
松村吏紗	中村美咲	澤島彩香
山口真歩	西沢美咲	（順不同）

### ◎制作協力

植田知美 北村美紀（株式会社シー・レップ）  
鈴木充（広研印刷株式会社）

NEXT  
ISSUE

『HAKUMON Chuo』2021春号  
No.269 4月2日発行予定

学生記者が  
総力取材!!

お楽しみに!

2021 早春号 No.268

2021（令和3）年3月24日発行

発行：中央大学広報室  
〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

メールアドレス：hc-grp@g.chuo-u.ac.jp  
編集担当：『HAKUMON Chuo』 ☎042-674-2048

